一　般　演　題　抄　録

20．タバコによる血管攣縮が原因と考えられた若年性脳梗塞の1例

上田治夫　赤松舞子　葛本佳正　橋本貴司　三井良之　高橋光雄
近畿大学医学部内科学教室（神経内科部門）

脳血管攣縮は若年性脳梗塞の危険因子の1つであるが，今回，我々は喫煙が血管攣縮の原因と考えられた1例を経験したので報告した．

症例：31才男性．

既往歴：24才時，左膝蓋骨骨折．

家族歴：特記事項なし．

現病歴：1997年6月，一過性黒内障，左片麻痺が出現し入院．右網膜中心動脈閉塞症，TIA と診断．頭部 MRI・MRA，諸検査で異常なく，アスピリンにて経過観察．

1998年5月，右または左片麻痺が出現する TIA が頻発し，右視力低下が増悪したため，再入院．

脳血管造影で，右 ICA に90%，左 ICA に70%の狭窄を認め，線維筋性形成異常症（疑い）と診断．チクロピジンを投与し経過観察．

1999年4月，脳血管造影目的で入院．前回認められた両側 ICA の狭窄は消失．両側 ICA の狭窄は可逆性と考えられた．一過性に，右または左の片麻痺が出現する症状は，両側 ICA の攣縮による虚血症状と診断した．問診上，喫煙が虚血症状出現の誘因と考えられたため，禁煙指導とチクロピジンを投与し経過観察．

同年6月，喫煙後に意識障害，左片麻痺が出現し入院．症状は補液のみで軽快したが，頭部 MRI では右前頭葉深部白質に梗塞を認めた．チクロピジンを中止し，再度の禁煙指導と Ca 拮抗薬を投与し経過観察．

同年11月以降，受診が途絶えていた．2002年5月，左片麻痺が出現し入院．入院日に施行した MRA では，両側 ICA の描出が不良であった．血管攣縮による虚血症状と診断し，補液を中心とした治療で症状は軽快した．第5病日に施行した MRA では両側 ICA の描出は，ほぼ改善していた．

脳血管攣縮は若年性脳梗塞の危険因子の1つであり，片頭痛，血管炎，子癇等に伴うもの，コカイン等の薬物よるもの等が報告されているが，本例においては，喫煙が誘因と考えられた．また，一般に血管攣縮が生じるのは短時間のため，検出されない可能性が高いが，本例では，比較的時間が長く，脳血管造影・MRA が診断に有用であった．

21．難治性上室性頻脈性不整脈に高周波カテーテル心筋焼灼術が有効であった肥大型心筋症を伴う急性心筋梗塞の1症例

石瀬卓郎　古田浩樹　武輪光彦　中村　元　中野厚志　宮高　昌
片山克彦　高井博之　平野　豊　林　孝浩　石川欽司
近畿大学医学部内科学教室（循環器内科部門）

症例　67歳，男性．66歳時から肥大型心筋症で当院に通院していた．平成14年9月13日15時30分，起座呼吸状態で壁に寄りかかり座っているのを外出から帰宅した妻が発見した．意識はもうろう状態であった．救急車で近医に搬送，心電図上II，III，aVF で ST 上昇を認め，急性心筋梗塞疑いで17時30分に当院 CCU に入院となった．入院時の心拍数は140回/分，不整．全肺野に湿性ラ音が聴取された．入院時検査所見は Trop T が陽性，白血球数14400/mm³，CPK-MB 250 IU/L とそれぞれ高値を示し，急性心筋梗塞と診断し，緊急心臓カテーテル検査を行った．梗塞責任病変は左冠動脈回旋枝 segment13で100%閉塞していたため，同部位にステントを留置し，再開通に成功した．しかし，その後，発作性上室性頻脈性不整脈（発作性心房細動，発作性心房粗動）の出現を頻回に認めた．この発作性心房粗動は2：1伝導であり，頻脈発作時は心拍数が140回/分以上となり，より拡張障害を増悪させ，重篤なうっ血性心不全状態を生じた．そのため，心拍数の安定化をはかる目的で，メトプロロール，ジゴキシン，ベラパミル，ピルジカイニド，アプリンジンを投与するも上室性頻脈性不整脈が寛解せず頻回に体外式電気的除細動を行わざるを得ず，うっ血性心不全状態からの離脱が困難であった．上室性頻脈性不整脈の合併がうっ血性心不全からの離脱を困難にさせている最大の原因と考えられたため，発作性心房粗動に対し，発症第28病日の10月10日に高周波カテーテル焼灼術を施行した．21回の通電で下大静脈と三尖弁間の伝導遮断に成功し，その後は上室性頻脈性不整脈の出現頻度も減少，体外式電気的除細動を行うこともなくうっ血性心不全状態から離脱できた．

考察　本症例は肥大型心筋症に心筋梗塞を合併し，さらに繰り返す上室性頻脈性不整脈による拡張障害増悪の結果，うっ血性心不全状態が持続したものと考えられた．心筋梗塞症例におけるカルシウム拮抗薬，抗不整脈薬の投与は心収縮能を低下させ，また，ジギタリス製剤は催不整脈作用や再梗塞を増加させる報告もあり，推奨されてはおらず，本症例のような難治性上室性頻脈性不整脈合併症例に対する心筋梗塞急性期の高周波カテーテル心筋焼灼術は有効であると思われた．